

ネット社会の歩き方

～情報モラル・生活安全学習のためのアニメーションによるケーススタディ型 Web 教材～

ネット社会の歩き方検討委員会委員長 高橋 邦夫（千葉学芸高等学校 校長）

キーワード：情報教育，情報モラル，生活安全教育，セキュリティ，e-Learning

1. プロジェクトの概要

「ネット社会の歩き方」は、2000 年度から 2001 年度にかけて E スクエアプロジェクトにおいて開発された情報モラル学習用の Web 教材である。ネット社会の便利な機能を活用する中で、時折出会うこととなるトラブルの事例をアニメーションによって紹介し、予防や対処の方法を学ぶ、というケーススタディの方式で、学校でも自宅でも簡便に情報モラルや情報セキュリティを学ぶことができる教材として開発され、活用されている。

100 校プロジェクト以来 5 年間の先駆的なインターネット教育利用実践を通じて学校現場で教員や児童生徒らが目にしたり体験したりしてきたことから、通産省消費者相談室での相談案件などからトラブル事例を収集し、どの学校でも簡便に情報モラル教育を行えるように Web 教材の形で公開している。

開発にあたった 2000 年当時、インターネットの普及に伴い、メールや掲示板等でのトラブルやショッピングサイト利用の際の被害事例など、ネット社会の影の側面が顕在化してきていた。この影の存在と、その予防やトラブル時の対処方法などについて、社会人においても把握している人は少なく、まして子どもたちが無防備のままネット社会の荒波に晒されて深刻な事態に巻き込まれるおそれが高まっており、学校教育現場を通じて何らかの啓発を展開していく必要性が強く感じられていた。

すべての学校で、という情報モラル教育の普及を目的とした本教材開発の発想は、このような時代の必然性から生まれたものである。



2. 教材の構成

学習ユニットは、Shockwave Flash によるアニメーションを用いて、典型的な問題事例をわかりやすく表示し、子どもたちに討論させるなど、考えさせる題材を与える教材である。自己学習用に、解説画面を表示させることもできる。34 本の学習ユニットは、ひととおりの基本を学習するコアとなるグループ（小学校高学年向き）と発展的な課題になるエクステンション（中学校・高校向き）のグループに分けられる。コアグループの教材は情報モラルを学習する上での必修項目であるが、エクステンションは学校の状況に応じて選択して使われることを想定している。

それぞれのテーマ（学習課題）に沿った学習モジュールは、アニメーション教材と指導展開例（教師用指導資料）とからなり、ほかにネットショッピングを疑似体験するシミュレーション実習システム（＋教師用指導資料）、それらのクロスインデックス（テーマ、場面、レベルに応じて使い分けるための索引）を設けて、経験が少ない先生でも、わかりやすい授業を行うことができる、使いやすい教材として構成した。

シミュレーション教材「電腦商店街」は、子どもに本物のショッピングを体験させたくないが、仕組みを知らないとトラブルに巻き込まれてしまう、という問題意識から作成された。2001年6月に設けられた特定商取引法に対応したのとなっており、ネット商店の表示内容を判断して、だまされずに契約を行う方法を学ぶことができる。



3. プロジェクトの成果

「ネット社会の歩き方」は、小・中学校をはじめ多くの学校で活用されており、独立行政法人教員研修センターのWeb サイトにある情報モラル授業サポートセンターで紹介された情報モラル授業実践例にもしばしば用いられている。学校ばかりではなく、家庭やパソコン塾などでも利用されており、中には高齢者向けのパソコンセミナーでの活用や、大学の教員養成課程での活用例もある。Web 上での閲覧はもちろん、ダウンロードして LAN に置いたり、個人用のパソコンに保存して用いたりなど、様々な利用を考えた著作物利用許諾形態をとったことも奏功したと考えられる。

他国に同種の情報モラル教材の例はなく、e-Learning の手法を用いた「考えさせる」タイプの情報モラル学習教材セットの開発は世界で初めてである。ネチケットや情報モラルの実践的な指導を、小学校段階から手がけるという取り組みを、日本では1995年以来いち早く着手している。諸外国において近年インターネット犯罪が低年齢化し問題となっているのに対して、日本においては、ブロードバンド化した後も、比較的深刻化した問題例が少ない状況があるが、それは、これらの取り組みに意義があったからではないかと考えられる。

また、場面や状況をアニメーションを通じて理解させ、トラブルへの対処を学ぶ形式は、道徳教育において物語や映像スキットを用いた手法の類推だが、Web を通じてシミュレーションも織り交ぜるという応用は、教員研修センターの「情報モラル研修教材」など、その後の「考えさせる教材」のモデルにもなったと思われる。

残念ながらその後のバージョンアップの機会がないため、近年の課題には十分に対応できない点もあるが、「情報モラル研修教材」などを補完的に利用することができる。今後も全国の学校で「ネット社会の歩き方」の活用が進められ、一人でも多くの人々がネットの危険から身を守ることができるようになることを願っている。

■参考となるサイト

ネット社会の歩き方	http://www.net-walking.net/ (http://www.cec.or.jp/net-walk/)
情報モラル研修教材	http://sweb.nctd.go.jp/kyouzai_new/
情報モラル・ネットワーク学習素材	http://moralnet.kashiwa.ed.jp/
情報モラル授業サポートセンター	http://sweb.nctd.go.jp/support/
学校教育と情報倫理メーリングリスト	http://i-ethics.k12.gr.jp/